木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会　会議経過要旨

<table>
<tr><td>会　議　名</td><td colspan="3">令和５年度　木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会</td></tr>
<tr><td>日　　時</td><td>令和６年１月２３日（火）
１０時００分～１１時４０分</td><td>場　　所</td><td>木津川市役所
５階　全員協議会室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者

■ 出 席 者
□ 欠 席 者</td><td>委　　員</td><td colspan="2">【第１号】
■中村　裕彦委員　□藤原　文野委員
【第２号】
■真山 達志委員(会長)　■今里 佳奈子委員(副会長)
【第３号】
□市川 浩之委員　□森川 泰行委員　■中﨑 鉄也委員
■鍵谷 康裕委員　□冨田 嘉彦委員　□姜 京希委員
□松尾 有基委員　■佐脇 貞憲委員　■西村 正子委員
□三上 かず子委員　■川崎 あき委員　■河合　智明委員
■浦辻 克碩委員　■松本 藍委員　□大倉 竹次委員
■松永 弘道委員</td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="2">茅早マチオモイ部長、阿部マチオモイ部理事兼デジタル戦略室長、西村学研企画課長、松下学研企画課主幹、吉田学研企画課長補佐、河野デジタル戦略室係長</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="3">１．開会
２．議事
・人口ビジョンについて
・市民アンケートの結果について
・（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略について
３．その他
４．閉会</td></tr>
<tr><td>会議結果
要　　旨</td><td colspan="3">１．開会
事務局から開会を宣言した。

２．議事
・会議録の署名委員として中﨑委員を指名した。
・人口ビジョンについて
資料１「国立社会保障・人口問題研究所　将来推計人口（令和５年推計）について」に基づき事務局から説明があった。
・（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略について
資料２「木津川市人口ビジョン（案）（仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略（案）に基づき事務局から説明があった。
・今後のスケジュールについて
資料に基づき事務局から説明があった。
４．その他
・仮称となっている名称について、仮称ではなく正式名とすることについて事務局から説明があった。
５．閉会</td></tr>
</table>

会議経過要旨 ◎会長 ○委員 →事務局	１．開会 会議結果要旨のとおり開会した。 ２．議事 人口ビジョンについて 【主な意見・質疑等】 質疑なし （仮称）木津川市デジタル田園都市構想総合戦略について 【主な意見・質疑等】 ○デジタルを目標に進めていく中で、基本目標毎にアウトプットを示している。デジタル化を進める中で、こども達なら率先して自分でデジタルを勉強して進んでいくが、高齢になると難しいと感じる方が多い。広く市民に IT 的な理解やテクニックを習得してもらう必要があるのではないかと思う。そういうことは、施策の中でどのように反映しているのか。 →基本目標５で P65 施策の方向性①の取組の６つ目「スマホ教室の継続実施によるデジタルデバイド対策」だが、本来方向性②デジタル基盤整備の方にあるべきで修正する。デジタルデバイド対策が、IT を活用したいができない方、高齢者の方などへの、IT 技術活用に対する対策になる。現在社会福祉協議会と連携して実施しているスマホ教室の継続実施で、デジタルデバイド問題の対策として、使える方を多くなるように考えている。 ◎デジタルデバイドという情報格差をなくす取り組みは、具体的にはいくつか入っているが、P49 の５つの基本目標の５番目の説明の中で、「誰もが便利で～」と入っているが、ここでデバイドに配慮することをきちんと入れてはどうか、市民への配慮が行き届いている印象も、あるいは意識も明確になるという提案なので検討いただければと思う。 ○この戦略はどこにどのようにつながっていくのか。市役所内の各部署が共有する基本的な資料になるのか、市民の皆さんに見てもらって理解を深める資料なのか。 →総合戦略は人口課題を解決するためのものという前提があり全庁的に共有し、人口に対する課題に取り組むためのものである。市民の方に向けては HP で公開して、いつでも見ていただける状況になる。 ○市役所の中で職員が共有して業務にあたるという理解でよいか。 →総合戦略を作成する段階から、庁内の全ての課で目標を達成するために、取り組む事業を検討し、まとめたものなので、作成段階から全庁あげて取り組んでいる。 ○基本方針があるが、何をするのか、何につながるのか、具体的にどういう施策になるのか、どうやって実現するのかが見えない。KPI 自体は中間評価システムで、最終実現する指標はそれを見越して、こういう成果があった、またはこういう理由でできなかったということが最終目標になると思う。それが民間企業で実施されている実績評価になる考え方だ。それを市役所内で KPI をやるなら、KPI の中間評価システムで、市民の反応だけが最終的に動員数が 100％超えたから効果 100％という実

	績評価につなげてしまうのは、本来の KPI の取扱いとしてはおかしい。それを KPI でやること自体に疑問を持つ。KPI という考え方ですべての業務を評価されるのは大きな疑問がある。 →KPI は施策ごとの数値目標で数値化できそうなものを示しているが、これを一つ達成できたからと言って、全てその課題を解決できるという理解はしていない。一つひとつの課題をクリアしていくことによって、最終目標のアウトカムにつなげていく。しかし、全ての KPI を達成したから、人口課題を解決できるかというとそれだけではない部分もあるが、目標がないと取組の評価がしづらい。ただし、数値目標を達成できたからと言って、それで取り組みをやめるわけではない。 ○基本目標２の P56 の KPI 指標も、基本目標に掲げられている全体の中では断片でこの数字だけ見ていくのでは評価できない。あまりにも乖離が激しい。これだけ目標を、実現していこうと、向かっていこうということであれば、この項目をもっと検討されるべきではないか。市役所の各部署がこれに向かって意見を出されて提案されてそれが集約されているというが、そのわりには個々に出てくる具体的な数字の項目が弱過ぎないか。それが KPI として出てくること自体が、５つの目標にかかげられていることと、評価をしようということと乖離が大きすぎると思う。 ◎総合戦略の位置づけというそもそもの話もあるが、木津川市では一方で総合計画の後期基本計画を策定中である。総合計画がそもそも最上位計画として市にはある。にもかかわらず総合戦略をなぜ作るのか、屋上屋を重ねる印象が否めない。もともと総合戦略は、安倍内閣の時代の地方創生の中で人口ビジョンとそれを実現するための総合戦略をできるだけ作りなさいということで、実質ほとんどの自治体が作った。つくらないと交付金や補助金がもらえない仕組みがあるからという面もある。総合計画の焼き写しでも抜き出しでもないが、総合計画と矛盾する内容は入らないし、重複するものがある。一方で総合戦略に入っていないものが総合計画にはちゃんと書いてあるという関係にもなっている。 したがって総合戦略は人口ビジョンを実現するためにこういう取り組みを戦略的・集中的にやっていかないと 2028 年段階で想定した人口ビジョンは達成できなくなってしまう。それで終わりではないが、あくまでも 2028 年という段階での目標を示しているという位置づけになる。総合戦略を策定する際に KPI を定めることが条件になっていて、必ず入れないといけない。例えば P50 で数値目標（KPI）が２つのものがあがっていて、生産年齢人口と新規就農者延べ人数の２つで、基本目標１がどの程度まで達成に向かっているかをこの数値を見て判断しようとしている。はたしてこの２つだけで判断できるのか、この２つが適切かには議論があると思うが、いろいろ検討して２つにされたということだと思う。この２つで基本目標が達成に向かっているのかを表現できるのか、これが KPI として適切かの議論になり、総合戦略に必ず入れないといけない KPI だ。 P52 にもう一回 KPI 重要実績評価指標が出てくる、これは先ほどとは若干性格が違う。P52 の KPI は、P51 の施策の方向性①②③に対応している。主な取り組みがどの程度効果を上げているかを個別に見てみようとするものが P52 の KPI だ。総合戦略として国の示すものでは、なくてもよいとされている。木津川市では、それぞれの施策の方向性を個別にチェックしたうえで KPI を見ていく趣旨から、独自に個別に定めている。ここに出ている KPI が施策の方向性を判定するのに適切かは、ご意見があると思うが、KPI は数字で出すことが原則になっているので、統計やデータと

	して取っているもの、数量化されているもの、できるものでないといけない。定性的なものは KPI にできない。そういうことから数値化されて、データとしてとっているものを KPI として設定せざるを得ない。その中で検討した結果、このようになったということである。同じパターンが基本目標１～５まですべてについて行われている。 基本目標の評価指標の KPI が不十分ではないかとのご指摘があったが、それぞれの事業ごとに、事業実績アウトプットについては把握されているはずで、一般的には事務事業評価という形で行われている。KPI はアウトプットではなくアウトカム、結果ではなくその結果によってどういう成果が生まれたか効果が出てきたかを見るのが KPI の趣旨で、効果にあたるものになっているかを考えないといけない。例えば P56 で考えると、「③産業やアートを中心としたヒトづくり」では「木津川アートの来客者数」しか見ていないが、実際には③は「木津川アート」だけではなく、他にも「けいはんな万博への参画」とかいろいろあがっている。それ全部は見ていないとなるが、それを全部見るのは業績全般を個別にみるアウトプット評価に近づいていく。色々な取組みをした時に、「木津川と言えば木津川アート」というのがあって、他のことで木津川を知って、木津川に行こうかとなって、木津川アートに行く人が増えてきたことが色々な取組みの一つの指標になると考えて取り上げているのだと思う。取り組みを総合的に見たときに、ここに結果が表れるだろうということで市の方で考えてこの指標が出ていると思う。委員や市民の皆さんには、それではなくこういう指標がいいのではと色々考えはあると思うが、全部について意見を聞き調整をするのは不可能なので、市としての取り組みを総合的に効果が出ていると、ある程度判断できるものをリストアップした性格だとご理解いただければと思う。 総合戦略を作り上げた結果、木津川市としてどう変わるのかというところはある。総合計画と同様に総合戦略という名称、策定プロセスからわかるように、市としても重要な計画の一種となる。ここに盛り込まれた主要な取り組みとは、各担当課で意見を出してもらって、集めてきているので、市としては各部署で十分に意識して実現していく、実施していくことだと思う。いろんな事情ですぐに着手できないものなども出てくると思うし、ここに書いていないことは行われないということではない。市の中で総合計画と同様に重要なものとして共有されている。節目節目で新たな個別計画の策定、新たな事業の実施、予算要求をする時などに、総合戦略に位置づけたことが活用されると思う。市役所内部で、職員の皆さんが節目節目で確認して活用する。市民には公表されるが、木津川市が人口をどれくらいにすると目指して取組をしているのかを知って、そのためにどういうことをやるか、主な取り組みを見るとちゃんとやっていない、もっとこの取り組みをしたらという提案をしていただく時に、一つの手がかりや基準として使っていただいたらと思う。市としてこういう方向性や考え方を持っているという表明の役割を果たしていると思う。交付金をもらえないという現実的な面もあるため、わざわざ書かなくてもと思うものもあるかもしれないが、書いておかないとあとで困る色々な事情もあるので、ご理解いただけたらと思う。 ○P53「新しい人の流れをつくる」の施策の方向性で、歴史文化遺産を活用した観光振興、自然資源の利活用や教育機関等との連携と書いているのが気になって、そのあとの取り組み内容がお粗末だ。［○］がこれからするということ、［●］ができてい

	ることだと理解していいのか。 教育委員会は市役所の機関と見ないのかと気になった。教育委員会がふるさと学習、郷土学習の授業を加茂地域だけでやっている。教育委員会が加茂地域に郷土学習をもってきたのは、「ふるさと案内・かも」が長く郷土学習に関わったりしているから持ってきたと思うが、加茂・恭仁・南加茂台小学校、泉川中学校の郷土学習に関わって、今年は南山城の仏像展にも関わった。３年間ずっと積み上げて、こどもたちに郷土の素晴らしさを伝える、それをどう活用していったらいいかには結びついていないが、私はこどもたちが郷土のことをこれだけ学んで、関心を持っていたら、中学、高校になった時に何か役に立つのではないかと期待を持っている。KPI には結びつかないとは思うが、そういう項目がどこにつながったらよいのかなと考えていたが、教育委員会のことはここには集約されていないと感じた。１月から３月までの間に、ふるさと学習の発表会を各学校で盛大にやっている。木津川台小学校の方が度々当尾に来ていただいて案内をすることがあり、非日常の世界に感動して、家族を連れてくるわというような反応がすごかった。KPI の項目は非常に事業的なことを書いてあって、ビジネスにならないことについてはあまり書かない、デジタルを使って事業につなげることが大事なのかなと、読みながら感じていた。 P36 の文章は表現がおかしいのではないのか。 ○P36「■市街地と中山間部の地域間格差の拡大」の文章は読みづらい。「市街地と中山間地域が併存しています。」の後に、「市街地においては都市機能や公共インフラが維持されるものの、中山間部での人口減少が進めば、過疎化が進み、それに伴う地域コミュニティの弱体化、公共サービスの供給不足」とした方が読みやすい。 加茂地域で 20 年活動しているが、加茂地域が本当に過疎地になってしまい、現状が良くわかっているが、P36 以降の新しい資料を見ても、そこを何とかして、歴史遺産がたくさんあるので観光地として使っていこうということを、KPI にも項目をつけて書こうと思っているのであれば、史跡保存を具体的にどうするかは総合計画に書くとは思うが、次の世代に継承していくことを、文化財保護も含めて、教育機関も含めてやろうという何かが欲しいと思う。私たち高齢者は、デジタルの部分で何かするのはついていけないが、中学生の発表を見ていると、先はあると私は嬉しかった。そういう夢みたいなものを載せてくれないかと思った。これは夢を語るところではないので無理なのか。 →歴史遺産の保存で KPI は１つしか挙げていないので、ご意見を参考に KPI として表すことが何かないか検討したいと思う。全体的に文化財、歴史遺産に特化した計画ではないということもあり全体とのバランスもある。検討し修正が必要であれば修正したい。郷土学習について、こどもが地域に愛着を持つことは人口の定着につながると思うので、取組みについて追加できるか検討したい。主な取組みの［●］はデジタルに関連する取り組み、［○］が今までの地方創生に関する取り組みと区分けしている。 デジタルを使って夢を描けないかということで、KPI ではわかりづらいかもしれないが、取組事業としては、デジタルミュージアムなど夢がありそうな施策が掲載されており、KPI だけみると難しいところがあるのはご理解いただきたい。 総合計画も現在作業を進めている。総合学習、郷土学習に関しては、教育の分野の中で「地域の特徴を生かした教育内容の充実」という項目があり、その中で「郷土教育の充実」ということで「地元の歴史文化を積極的に学ぶ」という文言を含んで

	おり、総合計画では郷土学習は重要な位置づけとなっている。 ○郷土学習には予算がついているのか。市内の活動団体として事業を受ける身だが、小学校で出前授業を依頼されたが予算ゼロで依頼がある。教育機関は全てボランティアという概念は払拭してもらいたい。すべて人を動かすにはお金がかかる、「ふるさと案内・かも」の郷土教育は団体のご厚意で20年間無償でされているが、その後継者はいるのかという話だ。それが今後の人材育成のことで、そのことについて発言させていただきたい。今回私は企業としてデザインをしている木津川市の学生３人をインターンとして受け入れた。学校、生徒から直接電話で受けて、２週間受け入れた。とても大変でお金もかかったが、学校からはお金は出ない。そこに補助があれば、いろんな企業に学生さんがインターンシップでいけば、そこから人とのつながりができて、木津川で就職して定着して結婚して、人口が維持される。大事だと思うので、そこの指標を入れていただけるとよいと思う。 ◎市の取り組みと基本的な理念の問題として、最近協働という表現で市民と行政が一緒になってやるというのはいいが、行政が市民はタダ働きするのを基本にしてしまうと、できることできないことがあり、過大な負担がかかることになるので、今後は予算面、事業の取り組みの中で配慮いただきたい。 →教育委員会にご意見を伝えておく。 ○デジタル化の話がメインになると思うが、デジタル化の肝は端末の操作ではなく、大量データを使ったＡＩの活用だと思う。その視点があまり入っていない。P51 で農業に関することが上がっていて支援するとなっているが、過疎になった地域で山が荒れてきているときにイノシシが出ることに対応しないといけないとき、いつどんな獣が出てくるか情報がどこかで集約されていれば、ＡＩで予測できれば、罠を仕掛けるにしても、人が減っても維持できる。別のところでは、紅葉がいつ頃になるか、長年データを蓄積してＡＩである程度予測できれば、観光の HP に載せて、案内する方もスケジューリングできたら人出が予測できれば予算も組みやすい。そういうできていなかったことをやるのがデジタル化で、情報収集や情報の一元化を進めるという言葉が欲しいなと思う。 教育で P58 の③にタブレット端末のことが書いてある。タブレットを買えないこどもいるので公共で用意するのも大切なことだが、高齢者でスマート化に慣れていない人にはそういう機械の使い方は大切なポイントだが、こどもはおそらくそういうことは自分で知っている。問題は大量のデータを使って予測して結果が出てくるが、大量のデータにエラーがあると結果は変わってくる。AI を使えるよと使い方だけを教えても、もとのデータの意味を教えておかないと危ない。そういう本質的なことを教えられる先生が必要で、そういう先生の再教育を忘れないように、どこかに書いておいていただくとありがたい。 →ＡＩ活用についての予算や計画の記載については、担当課と相談したい。教育現場の先生のデジタル教育は、基本目標５の行政組織の人材育成の項目で検討したい。 ○「安定した付加価値の高い農業の振興」の施策の方向性で、加えていただいたほうがいいと思うのは、農業環境とか、農地の荒廃、イノシシ、そういうことが周辺地域では深刻化している。この中で「直売所の増設」の項目があるが、直売所に直結する農業はどういう農業を想定しているか。大規模化農業やスマート農業は書いて

	あるが、人口動態を見ても就業人口の大半が高齢化していくと、高齢者、退職者、そういう人を受け入れる農業があるはずだ。大きくやっている農業者は、直売所との小さな単位の取引はほとんどあり得ない。成功されている直売所は年収で 200～300 万円の農業をやっている方が週に１・２回自分が作った農産物を納めて、その集団が何百人、何十軒、うまくネットワークを組んでいる直売所が成功していると思う。高齢者が農業をするということは、その程度の農業をどう組織化して、直売所につなげるかが必要だ。今後そういう年代層が増えることから、それをどうつなげていくか、そういう項目を入れておく必要があると思う。 →農業に関して、KPI は新規就農者の延べ人数や、主な取組みでも多様な経営体の確保・育成支援、農産物直売所設置支援など、農業者の支援と就農者を増やす目標を入れている。 ○文言が入っていることで気づく部分があるので、やはりそういう文言が入っているのといないのでは意識づけが変わってくる。検討いただいたらと思う。 ○P62 の③安全安心な暮らしに「防災道の駅」の整備とある。道の駅は農産物販売をすると思うが、縦割りだからか。P54②に「にぎわい拠点施設」の整備があるが、同じ施設のことか。将来的に防災拠点になる道の駅だと思うが、そこに地域の農産物を含めたものが入ってくるのか。私はつながっていると理解したが、そういうものがあると分かれば良いと思う。 →同じものだが、機能がそれぞれあり分けて書いている。この施設は現在、構想中であり具体的に示せる段階ではないため、ここでは「にぎわい拠点」と表現をしている。 分けているのは、今後整備する際の国の補助金等を想定し、観光系と防災系の両方の位置づけをしている。 ○道の駅のイメージがでたときには、地域活性、地域農業が入ってくるのかと思うが、それが「防災道の駅」と別々になっているので、事情が分かったのでよい。 ○基本目標２「新しい人の流れをつくる」の観光の部分で、観光庁の補助金が出ていると思うが、インバウンドの記述がない。JR 奈良線に乗っていても京都奈良間で外国人を多くみる、京奈和道も観光バスが走っているが、インバウンドの動きが期待できると思うが、その記述がみられない。 →ご指摘のいただいたインバウンドについては、観光の担当と調整して検討させていただきたい。 ○P65 の市のデジタル化で、外国人の方を木津川市のコミュニティにどのように受け入れるのか、受け入れてコミュニケーションを取れるようにしておくことがよいと思う。その時に市の対応で、今はデジタルで翻訳関係の技術が進化しているので、外国語で窓口が対応できる体制をつくっておくと、木津川市にいる外国人も安心だと思う。インバウンドの話も観光の面でも、話した言葉が翻訳されてテキストになるので、木津川市はそういうことができたら、色々な面でいいのではないか。 →P65「視覚障がい者や外国人向けの字幕表示ブースの設置」で、外国人に対する取り組みの記載はしているが、方向性のところには記載がないので、記載を加えるよう検討したい。外国人の対応はベトナムの女性を雇用していて対応してもらっているが、ツールを活用して職員だけでも対応できるような環境も整えていきたと考えて

	いる。インバウンドのところは事業としてはデジタルの取り組みはないが、検討は今後も進んでいくと思う。 ◎インバウンド、観光客だけでなく、木津川市に住む外国人まで含めた取り組みがあまり出てきていない感じがする。今、国の方はコロナもあって、海外・外国人の政策が弱くなっているが、今後、インバウンドの観光だけではなく、海外との交流、外国人の定住や労働力の問題も含めて、その要素が大きくなってくると思うので、何らかの形でもりこんでおいた方が、先取りという意味合いでもよいと思う。 今の意見や指摘を受けて、この戦略をさらに充実したものにしてもらいたい。 今後のスケジュールについて 【主な意見・質疑等】 質疑なし ３．その他 【主な意見・質疑等】 質疑なし ４．閉会